

令和 2 年 10 月 6 日

令和 2 年度白神山地世界遺産地域連絡会議への助言

白神山地世界遺産地域科学委員会

標記について、以下のとおり助言する。

1. 保安全管理について（科学委員会への報告事項）

- （１）各主体による環境教育のイベントが継続されている現状を高く評価する。
- （２）白神山地の保安全管理を担う地元出身者の活動の普及が期待される。
- （３）藤里町の QR 対応は先進的であるので効果の検証が期待される。
- （４）関係機関により一層連携した情報発信をされることがのぞましい。

2. モニタリング計画に基づく調査の実施状況について（科学委員会における検討事項）

- （１）気候変動が重要なので長期にわたり観測を欠損なく継続することとともに、解析に取り組んでいくこと。
- （２）「白神山地周辺のクマゲラ生息実態調査報告」（東北森林管理局）記載の情報を利用することを検討すべき。
- （３）イヌワシについては、地元団体により継続的に実施されている調査の結果の利用を検討すべき。
- （４）弘前大学による白神山頂の観測データの利用を検討すべき。
- （５）グラフの描写のし方やオーバーレイする地理情報を活用するなど、結果の表現を工夫すべき。

3. ニホンジカの状況について（科学委員会における検討事項）

- （１）隠れ場となる針葉樹壮齢林の広がりは限定的と思われることから、そこでの越冬痕跡の確認を春先に行ったらどうか。
- （２）越冬候補地を探索するための観測手段が不十分。冬期間にカメラを設置できないか。場所は要検討。
- （３）越冬地マップはカメラや罠の設置地点選定に役立つので保全のために活用していくこと。越冬地マップが広範囲であれば岩手県からの侵入経路の推定にも有効。

4. 入山利用への対応状況等について（科学委員会における検討事項）

- （１）秋田県側の入山について人材育成のために認定ガイドを中心に核心地域の巡視を活発にすべき。また、秋田県側の指定ルート候補の検討は重要。
- （２）巡視の効率化や巡視員の能力向上のために異なる主体による情報交換が有効。
- （３）観光利用・エコツーリズム推進のため、費用対効果が高い媒体による発信をするべき。

5. その他

- （１）ハクビシンによるクマゲラやイヌワシの巣への影響が既に出ていると考えられる。
- （２）世界遺産定期報告に向けて、資料の整備を進めておく必要。また、必要な情報を英文にしておくことが望ましい。

以上